



■38名の修了者を代表して、和納7区の青柳澄子さんが修了証書を受け取りました。

「高齢者社会において、地域の人たちがその地域の在宅介護サービス（奉仕）をして、共に生きる社会を作ろう」と国が進めている「ホームヘルパー養成講座」。この養成講座を、生涯学習の一環として開講したのは、町村規模では岩室村が全国で初めてです。同講座では、介護概論や老人・障害者の心理といった講義を17時間、村社会福祉協議会のホームヘルパーからの実技指導や温泉病院の管理栄養士による老人食調理実習などの実技を18時間、それに宮城県へ出かけての実習（視察研修）11時間と、理論と実技の一致した講習が行われました。

そして、46時間にも及ぶ全課程を修了した38名の皆さんに資格が与えられることになり、9月26日に行われた「岩室村福祉の集いと敬老会」の会場において修了証書が授与されました。

今後は、修了者がどのように学んだことを活かしていくかが大きなポイントになってくるでしょう。しかし、これらの学習はまだまだ初歩的なレベルにとどまっております。高度な技術を求める受講生のニーズとはギャップも生まれており、平成8年度は2級への養成研修の計画が進められています。



■講義では、医学基礎知識から老人・障害者の心理、福祉と幅広く、16時間にわたり学習をしました。

# 生涯学習に新しい風！

## ホームヘルパー(3級課程)養成講座



■公民館講堂において、在宅での衣類着脱や身体の清拭、シーツの交換と、その他必要な身体の介護を学び、介護には体力が必要なこと、病人へのやさしさ等を熱心に学びました。



■高齢者の食生活では調理実習を行い、個人の身体状況や生活状態にあわせた援助方法、消化力、排せつ状態、栄養のバランス等を総合的に学習しました。

21世紀は高齢化と少子化が共存する社会だといわれています。その誰もが避けて通れない老後について考えるとき、個々の地域住民の手で何を成すべきかを真剣に考えていかなければなりません。

そこで、岩室村生涯学習推進本部では、「人や自然との共生できる学習と、ボランティア活動のできる社会的・文化的風土の醸成を図りながら、岩室村を讀え、共に生きる源となり得るような講座を」とのねらいで、昨年度より「岩室讀講共に生きよう講座」を開講し、“ふれあい”と“奉仕”の心を学習しています。

同講座では、村社会福祉協議会の協力を得て、今年の6月から「ホームヘルパー養成講座(3級課程)」を開講し、4か月にわたりホームヘルパーとして必要な知識・技能を学習してきました。

今月の「広報いわむろ」では、同養成講座の内容の一部を皆さんにご紹介します。